

授業科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ	科目コード	261051		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	3年
担当教員	野崎佳織（非常勤講師）				
	実務経験教員（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） 実務経験内容 愛玩動物看護師資格 動物病院にて約 10 年間動物の診療補助、看護に従事 現場での経験をもとに、事例を出しながら授業を行う				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年 ・ 特別講義 ・ その他		授業コマ数	60 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	2 単位	
使 用 テキスト 1	書 名	動物看護学ハンドブック			
	著 者	日本獣医生命科学大学獣医保健看護学科臨床部門 編著			
	出版社	株式会社 緑書房			
使 用 テキスト 2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（ ）				
<p><授業の目的・目標> 各疾病による身体的・精神的状況から適切な看護法を考察し、個体に応じた看護が実践できるようになる。</p>					
<p><授業の概要・授業方針> 動物看護学で学んだ概要を再度復習し、動物看護師の役割、目的などを振り返る。多様な症状別および臓器別の看護のポイントを学び、その疾病や障害があることにより動物ができないことや問題点を考え、看護に活かす。</p>					
<p><成績基準・評価基準> 前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。 通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とする。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					

<授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他>

動物臨床看護学各論Ⅰ

授業科目名		動物臨床看護学各論Ⅱ
2H/回	授業内容	
		備考
1	科目概要、学習目標、動物看護学で学んだことの復習	
2	症状別の動物看護① 痛み（原因、病態）（看護のポイント）	
3	症状別の動物看護② 痒み（原因、病態）（看護のポイント）	
4	症状別の動物看護③ 嘔吐（原因、病態）（看護のポイント）	
5	症状別の動物看護④ 排便異常（原因、病態）（看護のポイント）	
6	症状別の動物看護⑤ 食欲不振（原因、病態）（看護のポイント）	
7	症状別の動物看護⑥ 多飲多尿（原因、病態）（看護のポイント）	
8	循環機能障害を持つ動物の看護（主な疾患）	
9	循環機能障害を持つ動物の看護（看護のポイント）	
10	呼吸機能障害を持つ動物の看護（主な疾患）	
11	呼吸機能障害を持つ動物の看護（看護のポイント）	
12	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護（主な疾患）	
13	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護（看護のポイント）	
14	前期まとめ①	
15	前期まとめ②	
16	生体防御機能障害を持つ動物の看護（主な疾患）	
17	生体防御機能障害を持つ動物の看護（看護のポイント）	
18	神経・運動機能障害を持つ動物の看護（主な疾患）	
19	神経・運動機能障害を持つ動物の看護（看護のポイント）	
20	排泄機能障害を持つ動物の看護（主な疾患）	
21	排泄機能障害を持つ動物の看護（看護のポイント）	
22	担がん動物の看護（主な疾患）	
23	担がん動物の看護（看護のポイント）	
24	高齢動物の看護（加齢に伴う変化）	
25	高齢動物の看護（生活環境の改善）	
26	経過に基づく動物の看護（急性期の動物の観察とアセスメント）	
27	経過に基づく動物の看護（慢性期の動物の観察とアセスメント）	
28	経過に基づく動物の看護（回復期、終末期）	
29	周術期の動物看護 （必要な技術と動物の看護、事例に沿った動物看護計画）	
30	後期まとめ	